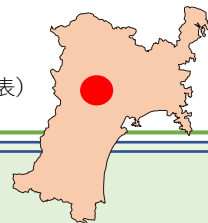


### 3. 事業名称：川下側の需要を反映した川上での効率的な素材生産及び特定母樹「遠田2号」低密度植栽による低コスト造林での収支採算性向上の取り組み（実証地：宮城県）

〔実証団体 林業経営体：守屋木材(株)、(株)仙台木材市場、(株)佐藤製材所、(有)寺島木材〕  
〔支援機関：宮城県林業技術総合センター〕

太字は窓口・連絡先  
アンダーラインは経営体、支援機関の代表)



#### ➤ 実証のテーマ

川下側の需要を反映した川上での効率的な素材生産及び特定母樹（遠田2号）低密度植栽による低コスト造林での収支採算性の取り組み

#### ➤ 実証の内容（アンダーラインは使用機械・機器等）

森林調査  
守屋木材(株)

素材生産  
守屋木材(株)

流通  
守屋木材(株)  
仙台木材市場  
佐藤製材所  
寺島木材

再造林  
守屋木材(株)

保育  
守屋木材(株)

支援機関：宮城県林業技術総合センター

#### （素材生産）

- 川下側の需給情報を反映した寸法でICTハーベスタに指示して採材
- 素材生産のデータ管理・蓄積機能、最適採材機能（最大価格で自動採材）、カラーマーキング機能、生産制限機能（価格や需要に応じながら、指定した数量以上は生産しない機能）を搭載したICTハーベスタの活用
- 検知作業は人力での検知作業と木材検収システム（写真検知）での検知作業、ICTハーベスタによる検知作業の3つの方法を実施し、人力での検知作業との差を確認
- 収益向上は製材用丸太、合板用丸太、チップ用丸太の売り上げと主伐経費について、従来方式で実施した場合の試算値と実証の結果を比較して判断

#### （流通）

- 支援機関の協力の下、素材生産者と木材需給者が需給情報を共有し、適切な木材供給を行う体制について検討（協議会を設置）

#### （再造林）

- スギ特定母樹「遠田2号」の植栽により、植栽本数を通常のヘクタール当たり3,000本を1,500本の植栽
- 植栽本数を2分の1にすることにより、苗木費用を従来の半分に縮減

#### （保育）

- 特定母樹を植栽することにより、下刈回数を5回刈から3回刈に設定し、経費削減効果を検証
- 下刈作業も従来の全刈から坪刈に転換することにより経費削減効果を検証

#### ➤ 新しい技術の先進性、独自性、優位性

##### （素材生産、再造林、保育）

- ICTハーベスタによる主伐と特定母樹による低密度植栽、保育経費削減は宮城県内で新しい組み合わせ

##### （素材生産、流通）

- ICTハーベスタを使用した需要動向に応じた素材生産による収益向上を図り、適正な山元還元になると同時に川下側の顧客満足度を向上させる
- 川下側の需給情報を反映させる仕組みづくりを行う

##### （再造林）

- 「特定母樹」による低密度再造林の取組により、低コスト造林を実証し、宮城県内の造林未済地解消に役立てる

#### ➤ 実証の目標

##### （素材生産、流通、再造林、保育）

- 各実証内容の取り組みにより、総収支をプラス化
  - 従来の素材生産方法や再造林方法と比較し、導入による成果や課題を洗い出す
- ##### （流通）
- 総収支のプラス化だけでなく、木材需要者と素材生産の連携によって、川下側の需要を反映した素材生産を行うことにより、工務店や最終消費者の満足度向上につなげる
- ##### （再造林）
- 低コスト再造林による実証事例を作ることで、関係団体への情報提供(成果や課題等)を行い、今後の県内の低コスト再造林推進の一助とする

#### ➤ 事業効果

- 実証事業により総収支をプラス化
- 適正な山元還元を行える仕組み作りに寄与
- 川上、川下の需給情報共有により、素材生産体制づくりに寄与